

ニンカン・ネット通信

ニンカン・ネット
Vol. 3
2004.3.10

【発行】ニンカン・ネット 〒466-0833 名古屋市昭和区隼人町19 南山短期大学内 Fax (052)836-6543 (南翔会事務局)

春の光をあひて

まがいもさで白い花が好き
(たとえあれ色までやくとしても
まがいものでない木が好き
(木はいつも株立つ日を夢みて
月をつき抜けた透明な空の好き
(重力にひかれるこのままだを高く高く舞ひ踊らでくれるから

ひとは言う

せの中そんは甘いとおじやねりよ
馬鹿とうるのはあひだよ

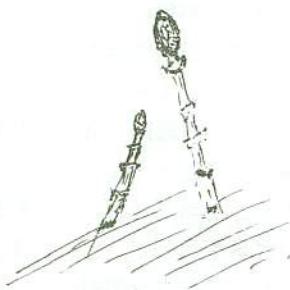
美しい絵とは
人の幸せとは

子どもの音でよとけ

仕事をするとは

生きるとは

たがゆたしは ひとほめにとまれば
行き交うひととのああきよしき
清き白水の流れの音をきこえりる
りきりるりのうは いつでも
流ゆる水のよう 滴みなく 生まれて消え
消えるから生まれる



詩画 中野 清

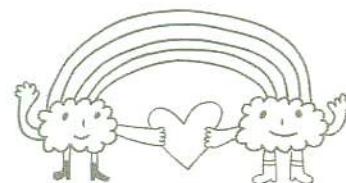
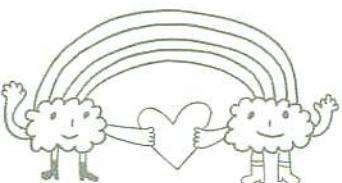
特集 再就職

「組織の人間関係」 中村和彦先生

インタビュー 「私の転職体験」 星野欣生先生

「HELLO」みんなの投稿ページ ~再就職~

がんばっている人 Pick Up 間渕文子さん(24期)



組織の人間関係



「組織」一別に暴力団やマフィアのことをさしている訳ではなくて、多くの人々がある目的で集まり、いくつかのグループから形成されていて、地位や役割ができているものを「組織」と呼んでいます。会社や企業、ボランティア団体、PTA、町内会や子ども会、学校や大学など、いろいろな組織があります。今回は特に会社組織を念頭に置きながら組織について書いてみようと思います。再就職の際には、新しい分野の仕事をするという変化がありますが、新しい組織の風土や人間関係の中で働く（関わる）という変化もあるわけです。

「会社は厳しい」とか「会社では我慢の連続」、「仕事が嫌なのはあたりまえ」とよく言われますよね。仕事って、厳しいもので、我慢しながら嫌々やるのが当然なんでしょうか？仕事のやり方を変えた方が効率的だと気づきながら、自分のアイディアを言うと「意見するなんて十年早い」と上司から頭ごなしに言われる、上司は自分の仕事量のことなど配慮せず、仕事が過剰になっているのは「お前の能力がないからだ」と責められる、何でも伝えあえフィードバックしあえたあの人間の頃は何だったの…という経験、会社に勤めたことがある方ならきっと経験あるでしょうね。

これって、組織の風土も関係しています。上司が仕事の内容や方向を決めて、部下はそれに従い仕事をこなす、というタイプの組織を、ピラミッド型の「トップダウン型組織」と呼んでいます。高度成長の時代から、社員は会社のため、そして上司の命令に応えられるよう、一生懸命に働いてきました。今現在、上司にあたる年齢の方の多くは、トップダウン型の関係性で鍛えられてきた方が多いので、部下にもそのように関わることが多いかと思います。私たち、自分が受けてきた体験や関わり方、学び方でしか、他の人に関わらないですから…。

ところが最近、トップダウン型の組織では経営がうまくいかないことがしばしば起こっているようです。①技術革新の早さについていけない、②時代の変化の中、上司や経営陣が正確な決定ができるとは限らない、③若手が仕事にコミットしない、④部下が自律的に動こうとせず責任もとろうとしない、⑤不満が上司や経営陣に伝わらず陰で作用する、などの現象が生じ、それらが組織の“風土病”になっている…。そんな中、組織もトップダウン型からボトムアップ型へ、そしてウェブ型へのシフトが求められています。また、組織の風土変革をめざしたいいくつかの手法

—現在の組織風土改革—

中村和彦

が提案されています。

1) スコラ・コンサルト流の風土改革

5年前、「なぜ会社は変わらないのか」(柴田昌治氏著:スコラ・コンサルト代表)という本がかなり売りました。スコラ・コンサルト流の企業の風土改革では、会社の風土や人間関係にアプローチしていきます。その特徴は、社員が自由に話し合える風土を作ること(そのために「オフサイト・ミーティング」という手法を用いたりします)、当事者が自ら考え自律的に動くこと、チームで協同できる関係を創ること、経営陣と社員との風通しを良くしフラットな関係を創ること、会社を変えたいと思う内部のエネルギーが活用されること、などです。現実に変化した企業があるから、なんか勇気づけられます。関心がある方は、2004年5月下旬に人間関係研究センターにて柴田氏の公開講演会が開催されますので、どうぞいらっしゃってください。

2) 自律型チーム組織

“やらされる”から“自らやる”，という主体的で自律的な動きが重要であるという理論が、アメリカの組織論を中心に提唱されています。チーム自らが目標を設定し、それに向かって取り組み、成果に対して責任を自らとる、という自律型チームです(「権限委譲」と呼ばれる動きとも共通点があります)。これは、内発的動機づけを大切にするとともに、自ら決め、自ら責任をとるという厳しい環境でもありますね。

3) ファシリテーター型リーダーシップ

自由に話し合える、自律的に動く、という風土になっていくためには、リーダーは“コントロールする”動きではなく、それぞれの持ち味を“引き出す”“エンパワーする”という動きが必要になります。“引き出す”“促進する”という機能こそ、まさにファシリテーターの機能です。時代は今、ファシリテーター型リーダーシップ(十変革型リーダーシップ)を求めているようです。“ファシリテーター”とは人間関係科がまさに大事にしてきた、そして、今年から設立される大学院“教育ファシリテーション専攻”ともつながる理念です。これからの組織は“プロセス”“ファシリテーション”といった、人間関係科が大切にしてきたことが脚光を浴びる時代かもしれません。そこに移行できない組織は低落傾向へ…。

私事ですが、2004年9月から留学に行かせていただきました。諸外国でのTグループの様子や組織開発の方法をいろいろ勉強してきます！

(南山大学人文学部心理人間学科助教授)



「私の転職体験」星野欣生

Q 大学を卒業後、家裁の調査官になったきっかけは？

もともと、私は法律の解釈よりも法社会学や犯罪学に興味があったんです。たまたま、ゼミで先生が少年非行を取り上げたことがきっかけになって、調査官の道を選んだのです。会社員になる気はありませんでしたし。大阪と名古屋をあわせて19年ほど家裁に勤めました。

Q その後ビジネスコンサルタント会社に行く事になつたいきさつは？

調査官の仕事は「この人は今何を思い、どんな感じでいるのか。」を感じ取る力(感受性)がないと仕事にならないですね。そのために感受性を磨かなきゃならないのです。大阪から名古屋に転勤してきた時、同僚がTグループを勧めてくれたんです。40歳近かった頃です。裁判所には国内留学の制度があって、私はそれを利用して、立教大学の研究所（JICE）に行き、そこでメリット先生に出会い、Tグループの勉強をしました。その時に初めて〔プロセスから学ぶことがいっぱいある〕ことに気づいたのです。6ヶ月後裁判所に戻り、仲間とTグループの勉強会などしていたのですが、なかなか広がらない。そんな時、JICE時代に知り合ったコンサルタント会社から勧誘があったのです。その時の私の気持ちは、調査官の仕事は大方分かってきているし、公務員だから先の事も見えているしで、Tグループの方がおもしろくなっていたんです。何か新鮮で惹かれるものがあったんですね。それで「エイヤッ」とばかりに飛びついちゃったんです。最初の転職ですね。

Q その後南短にいらっしゃることになったんですね。

民間の会社は、顧客の会社が要求して来ることに、ある程度合わせて利益を上げなきゃいけない。入社して間もない頃のことですが、ある鉄鋼のメーカーさんの研修でTをやったんです。終わった時の状況を見たら、売れっ子のコンサルタントのグループは、アンケートは満足度が6とか7で、皆肩を抱き合って泣いてるわけですよ。私のグループは、満足度3とか4で、皆しらっとしてるじゃないですか。私は、抱き合って泣くなんてことは嫌なんです。Tグループは結果じゃないってことが、頭にくっきりがあるので。そうすると翌日顧客から「ノー」と言ってくる始末。それが会社の限界なんです。それに私の会社は業績主義で、消費が美德、どんどん使ってどんどん稼げという考え方でした。だんだんお金に対する考え方方が麻痺してきましたね。「これはヤバイな。もう辞めないと」と思っていた矢先に、南短に人間関係科がスタートしたんです。人間の2年目にメリッ

ト先生から「人手が足らんから手伝わんか」と突然電話をもらった訳です。それで、渡りに船とばかりに「辞めた」ということです。メリット先生とのネットがあったからでしょうね。

Q 先生にとって転職はどういうことでしたか。

私は、結果として3つの仕事に就いたことになります。始めは調査官一筋でと思っていたのですが、いろんな人とのネットワークのおかげでこうなりました。そこで思うことは、私は一筋で来た人よりも何倍も得をしたなあ、本当によかったと思うのです。経験をした組織を見ても、役所、会社、学校と3つあり、それぞれ大きく違うので沢山勉強させてもらいました。そして、何よりも大きかったのは、転職する時の決断のプロセスから得たもの、またその時に湧いてくる新鮮な気持ちとエネルギーです。転職を重ねていく中で、私自身が大きく変わっていましたこともありがたいことです。Tグループを例にとりますと、南短に来て、学生と関わっていく中で、人を受容することがどういう事がを教えてされました。転職しないで、そのまま会社にいたら、こんな私はいなかたでしょうね。これは結果として言えるんだけども、結局は人間関係のことをスタートからずっとやって来たと言ふことですね。役所・会社・学校、ずっと繋がっているんです。それをつないでくれたのは、Tグループだったんですよ。転職する時の状況から私が思うのは、ちょっと、もやもやしていることが大事なことです。人間ってスッキリしない時がありますよね。スッキリしたいのが人情ですけれど、病気でさえなければ、もやもやを大事にしていると、それに火がつくことがあるんですよ。私の場合、もやもやして何をしたら良いか困っていた時に転勤があって、そこで同僚にTグループを説かれた。もやもやしているものにある意味で火が付いて、訳分からんけれどやってみたら、面白そうになって飛びついた訳ですよ。人生していくつになっても何が起るか分からないですよ。

Q 最後に人間卒業生に向けて、メッセージをお願いします。

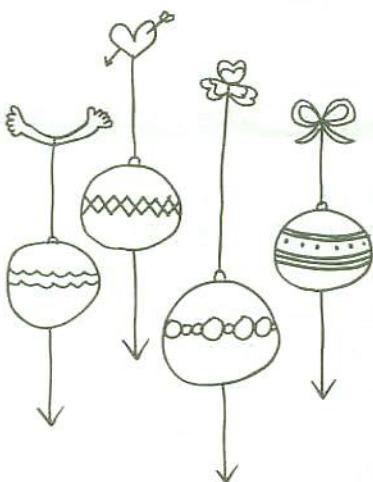
皆さんいろいろな経験をされて、いろんな積み重ねがあって、もやもやすることも多いと思いますが、もやもやを消してしまわないで何とかやって行けるなら、それを心の片隅においておいて、いつかそれに火がつくことで、新しい自分を見つけるチャンスになると思います。私がいい例ですよ。もやもやがあったから今の自分があるんです。まあラッキーだったと思っています。

今日はどうもありがとうございました。

聞き手（5期 林幸子、小川けいこ）

ネットワーク紹介 HELLO!!

「ニンカン・ネット」の目的のひとつ、ネットワーク作り。今回のテーマは再就職。もう一度社会に出ようと思った人、実際に出た人、最近転職した人…など投稿をいただきました。



私は、短大を卒業してから、ほんの少し損保会社に勤め、パートを経て、実家の自営業を手伝っています。結婚後も同じです。この歳になりますと、再就職の人の面接をすることも多くなりました。雇用する方は、就職したいと望まれる方に「何が出来るのか」「どんなことをしてきたのか」ということが一番の興味有る点です。子育て後、資格があるから活かしてみたいと思われる方もいらっしゃることだと思います。資格の内容は流動的で、日々、更新されていると考えるべきです。自分の出来ることが、社会などにとってこのくらい効果的であるということをアピールされると、印象ありますよね。

大垣市 2期 安田由美子さん

「日 本郵政公社 4月スタート」で私は転職して郵便配達の仕事を始めました。初めてのバイクの運転でしたが、「やれば出来るでしょ

う。」安易な考えでした。人の仕事は楽そうに見えるもの。「ただ配るだけ」が大変なのです。私には今までの人生経験上ある程度の自信がありました。「やれば出来る」と。そう信じて頑張っています。長く生きていると初めての体験というものが、だんだん少くなります。だからあえて私は初めての体験をどんどんしたいのです。

いろんな世界が見えておもしろいです。しかし、覚えることがだんだん苦手になってきた年齢です。でもいつまでも若者と共に頑張りたいです。この元気が続く間は。体力の限界を知らざりますが、一度決めた道、しばらくはこの世界で自分の力を試してみようと思っています。

辛い時はゴスペルを口ずさみながら…。

豊川市 5期 山本和子さん

主婦をして再就職しようと思っている人は沢山いると思います。「もうできないんじゃないから」と弱気の方が多いと思いますが、大丈夫です。

私は卒業してからずっと仕事を(転職は何度かしています)していますが、大した経験もしていませんし、主婦の友達から教えられることのほうが多い気もします。だから全く心配要りませんので、皆さんどんどん就職しましょう！ま、あえていうなら多少のパソコン知識と判断力でしょうが、後者は個人の能力？(社会人だからとか、経験者だから正しい判断ができるとは限りません)ですので。以上、同期を含む「子育てに一息ついている皆様方」に就職のススメ&エールでした。

瀬戸市 6期 若林吉美さん

5年ほど前、消費生活アドバイザーの自主勉強会に参加していたメンバーの中から有志3人が集まり、「グループASKA」を結成しました。目的はワーキングマザーや

ワーキングマザーを目指す人々への情報提供と交流の機会を作ることです。子育てがひと段落したら働きたいと考えている人は多いようですが、この不況下で仕事を探すことから子どもの預け先や家事のことまで、主婦が再就職するまでには乗り越えなければならないハードルがいくつもあります。「大丈夫、こんな方法もあるよ」「あなたならできる、チャレンジしてみたら」と、再就職への一步を踏み出そうとしている人たちの背中をポンと押してあげるような活動ができれば、と考えています。

春日井市 8期 梶田明子さん

グループASKA

主な活動として情報誌「あんだんて」を年4回発行しています。また、会員へ郵送するほか、名古屋市女性会館、ウィルあいちなどにも置いています。詳しくはホームページ「ミセスの『働く』5段活用」でご覧頂けます。
<http://member.nifty.ne.jp/groupASKA/>

現 在私は看護師として病院勤務をしています。なぜ再就職したのかと申しますと今から7年前看護師として毎日忙しく勤務していたとき、小児科で臨床心理士に出会い患者さんと十分な時間の中での関わり合いに惹かれ、私にもできたらという想いから臨床心理士を目指しはじめました。各大学が集まっての説明会に参加、臨床心理士になるに



は4年生大学へ行くのが望ましい選択でしたがここで南山短期大学の人間関係科に目がとまり、日本初の体験学習形式に興味をもち是非ここから学びたいと強い希望があり、願い叶い人間で2年間学びました。忙しかった看護師の生活からゆっくりとした時間の流れ、体験学習という人間関係のあり方をあらゆる方向から学びました。

そして私は臨床心理士の夢をもち続け、南山大学教育学科3年次へ編入。ここでは編入生の苦しみがよくわかりました。ゼミは心理系に所属。講義は、心理の基礎事項を細かく勉強、宿題も大変多く頭に詰め込み作業の日々を乗り越えなんとか卒業で

きました。ここから大学院へ進み臨床心理士へと夢を続ける予定でしたが4年間の学費と生活費が底をつけ、又大学院入試の難しさを間のあたりにし一時断念してしまいました。今はひとまず学費返済の為、再び看護師として病院へ再就職しています。大学時代は社会人から現役の学生さんに混じり、何事もついて行くのは人の3倍努力が必要でとても大変な事でしたが周囲の皆様の暖かい見守りがあり、背中を押していただいているように感じています。特に人間の2年間は自己理解を深め、対人関係における気づき、成長のためのフィードバックなどすべての体験学習が現在再就職した私にとても役立つ

ときがあります。対人関係に悩んだときなど真っ先に「人間関係トレーニング」本を取りだす始末です。この4年が私にとって大きな変化であり、これからも社会のルール範囲の中で役立てていきたいと思っています。

名古屋市 25期 佐藤麻矢さん

「人間関係トレーニング」

—私を育てる教育への

人間学的アプローチ—

南山短期大学人間関係科監修

津村俊充・山口真人編

ナカニシヤ出版（1992年初版）



Qどうして放送局の仕事をやめようと思ったのですか？

秘書という仕事よりももっと現場でバリバリ働きたかった。

自分の能力不足も痛感していたので、幅広い知識を吸収して柔軟に物事を考えられるようになりたいと思い、ステップアップのつもりで大学に編入しました。

Q2つの学校の違いはありましたか？

短大では、和気あいあいとした暖かな雰囲気があったのですが、大学は規模が大きいので、皆が知り合いというようにはなれませんでした。でも、縁が多く、施設も整っていてよい環境だと思います。

私自身は、短大時代はあまり勉強しないで、社会に出てみてやっと勉強したくなったので、大学では勉強が楽しく感じられ

間渕文子さん（心理人間学科4年）

静岡県出身 1998年南山短大人間関係科卒業
静岡の放送局に秘書として4年間勤務し、2002年南山大学人文学部心理人間学科3年に編入。卒業後は、静岡県内の少年サポートセンターに「少年補導員」として就職の予定。



ました。

大学でも体験学習の授業を受講して、いろいろな学生と接することができたので、体験学習のよさも改めて実感しました。

Q仕事をやめる決断、始める決断はありましたか？

やめる時は、それまでのことに納得していないところがあり、「自分がこれからどうなりたいか」を考え、とてもエネルギーを使いました。大学を受験しようとしたことが、仕事をやめる決断になったと思います。

始める時は、どんどん決まっていくという感じでした。

Qまわりの反応はどうでしたか？

会社をやめようか悩んでいる時、短大時代の友人に励まされたことは心強かったです。

両親も、大学に編入したいといふ思いを理解してくれました。

会社の上司や先輩も応援してくださいだったので、とても感謝しています。両親は、就職のことを心配していたので、地元で公務員になるのを喜んでいます。

Qこれから仕事を始める人に、何かエールをください。

今の仕事がすべてではなく、さらにステップアップしよう。私も向上心を持ち続けたいと思っています。
「自分のペースでやりたいことをやろう」

インタビューを終えて

略歴からするとトントン拍子に進んで行かれた印象がありますが、そこに至るまでの間渕さんの努力と意志の強さを感じました。インタビューというより雑談のような雰囲気の中で、いろいろ貴重なお話を聞け、参考になりました。

さらなるご活躍をお祈りします。

聞き手（6期 織田厚子、古山美保）

FEED BACK FEED BACK FEED BACK

フィード・バック

いつも「ふりかえり」を頂きありがとうございます。創刊号から今までの一部を紹介致します。

Q1 感想をお聞かせください

*卒業からずいぶん経ち、ニンカンという書きに触れることが新鮮でこんなに心おどるとは思いませんでした。

17期 N.K.

*今後もずっと続いてくれたら嬉しいです。

23期 Y.Y.

*ニンカンが大学の方に移って何となく淋しさを感じていたのでこのような通信で“ニンカン不滅”みたいになってとても嬉しいです。

9期 U.Y.

*7月に長女が生まれ、初めての育児をとまどいながらも楽しんでいます。時にはイライラすることも・・・でも今回のネットワーク紹介を読んでいたら、ちょっと気持ちがスッと楽になったような気がします。

23期 I.M.

*行きたくても行けなかった「ようこそPARTⅡ」の様子がわかつてうれしいのと同時に参加できなくてほんとに残念でした。

17期 I.N.

「ニンカン・ネット通信」創刊号への反響は大きかったです。

2000年に短大から南山大学に移行するという驚きと喜び、そして寂しさという複雑な思いの中、「通信」に続いている「人間」を感じた人が多くいました。お礼と励ましを頂き、運営スタッフも感謝です。



Q2 取り上げて欲しいこと、または発信したいことは何ですか？

*南山大学心理人間学科の様子が気になっています。

2期 T.T.

*同期が紙上で関わる何かひとこと通信でもいいので、同期のみんなのことが知りたい。

5期 U.S.

*自己実現の場を提供している卒業生やそれに関わる情報。

11期 Y.H.

*がんばって活躍している人ばかりでなく、毎日の生活に追われているその他大勢の卒業生の近況あるいは、考えていることが知りたい。

12期 S.A.

*以前教えて頂き、現在は卒業(?)していかれた先生方の追跡など。

15期 T.S.

*「ネットワーク」のコーナーが良かったです。今後子育てについても取り上げてもらえたなら嬉しいです。

21期 F.K.

*川浦先生が書かれていた子育て支援のサポートグループについてです。

17期 F.N.

*私は豊田市図書館で絵本の読み聞かせボランティアをしています。「大人と子供ためのおすすめ絵本」コーナーなんいかがでしょう。

18期 M.M.

*人間で学んだことを今どんな風に大切にしているか、聞きたいです。

26期 H.A.

*いろいろな卒業生たちが活動していることをお互いに紹介し合えるような内容を期待しています。

T.T.

先生や卒業生が今まさにどう生きているかを知りたいという気持ちが伝わってきます。南山大学心理人間学科のこと、子育て・教育・仕事・介護・自己実現など・学びの場としての情報を期待する声も高かったです。近い将来、紙上講演やミニワークショップ等も企画してみたいですね。

Q3 今後ニンカン・ネットとどのような関わりならできそうに思われますか？

*自分自身の思いを送ることと通信のフィードバック。

13期 M.K.

*封筒詰めくらいならできるかも…

5期 U.K.

*毎回楽しみにしている読者。また、何か私で書けそうなことがあれば少しくらいなら原稿も書きます。

20期 Y.Y.

*子供が小さいので、自分の時間ができたら関わらいいなと思っています。

17期 K.M.

*夫の仕事の都合でアメリカに行くことになりましたので、現地特派員(!?)として何かおもしろいお話しができるかも~???なんてたくさんでいまーす!

18期 M.M.

*通信発送のお手伝いなど、時間や人手としての提供。

17期 I.N.

地域レポーターや通信発送作業に協力を申し出で頂いています。「自分でも何かしたいけれども模索中」という意見が数多くありました。自分の好きなこと、例えばイラスト・エッセイの投稿、仕事のこと、おすすめの本などの情報提供、子育て・介護・仕事の悩みに対するエール・・・など何でも結構です。



Q4 その他

*住所変更をお願いします。

6期 K.K.

住所変更や不明者の住所がわかった場合、南翔会にお知らせください。ニンカン・ネットに頂いた場合も、南翔会に通知しています。

*奨学助成金のことが書いてあります。その様な活動をしている人がいるのですか?

6期 W.Y.

奨学助成《奨学コース》を受けた方 (2004年2月29日現在)

21期 谷口菜織子さん

沖縄HIL Tグループ研修参加

5期 福原光子さん

図書購入「復刻版Creative O.D.
(プレスタイム)

23期 今井理恵さん

愛知教育大学大学院

(学校教育専攻)入学

6期 杉山郁子さん

南山大学大学院
(教育ファシリテーション専攻)入学

《奨学コース》の他に《一般助成コース》も始まりました。別紙A面をご覧になり、是非ご利用ください。

*郵送費などはどうしますか?
年会費とか、できるのですか?

23期 N.Y.

運営費のご心配を頂きました。「ニンカン・ネット」は寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。同時に運営委員会スタッフも募集しています。尚、別紙B面に「ニンカン・ネット」規約を載せています。是非、お読みください。

寄付の振込先

UFJ銀行 八事支店 普通 1715892

ニンカン・ネット 代表者 伊藤 雅子

*お名前と期(学生番号)を必ずご記入ください。

これからも皆さんからの思いをのせた通信をつくり続けていきたいと思います。
「ふりかえり」をどんどんお寄せ下さい。
お待ちしています。

ホームカミングデー (2003.10.26)

ようとIII
オリジナル携帯ストラップ
販売しました



私の読書ノート

その一

伊藤雅子先生

設立時に図書館の図書を揃えたり、図書委員を務めたりして、ますます増幅されたように感じている。そういう私の読書ノートから、面白いと私自身が感じたものをシリーズでご紹介してみよう。何回続くかな?

初回は自然界の動物・植物に関するものから始めてみよう。どこかで「生態学に関する本は今、面白いですよ」という言葉を耳にした。確かに!そしてハンドバッグに入れて持ち歩きやすい、読みやすい新書版に面白い本が沢山ある。

本川達雄著「ゾウの時間ネズミの時間」(中公新書1087、1992年)はかなり有名になったので既に読まれた方も多いと思う。私は小鳥に関する3冊をお勧めしたい。小西正一著「小鳥はなぜ歌うのか」(岩波新書 338、1994年)は小鳥のさえずりの伝授法、鳥の方言(名古屋弁でさえずるのを聞きたい!)、人間の物まねなどのほか、採集旅行のことなども面白い。ただし、鳥のさえずりの解剖学的説明となると著者に失礼して「ナナメ読み」となる。岡ノ谷一夫著「小鳥の歌からヒトの言葉へ」(岩波科学ライブラリー92、2003年)は孫もきっといつか興味を持つだろうと思ながら読んだ鳥のさえずりに関する本格的研究成果をふんだ専門的科学書だ。それに対し柴田敏隆著「カラスの早起き、スズメの寝坊—文化鳥類学のおもしろさ」(新潮選書、2002年)は是非手にとって目次を見て頂きたい。「電線にき

ちんと並ぶのはなぜか?」に始まって「エッ!エッ!」と思いながら本屋さんで立ち読みをしてしまう本だ。また、挿絵の鳥達も美しい。

植物について、まずお勧めは田中修著「ふしきな植物学一身近なみどりの知恵と仕事」

(中公新書1706、2002年)で、一見平易に書かれているが、背景には幅広い研究の成果が隠されている。続く2冊は何れも雑草に関するもので、稻垣栄洋著「雑草の成功戦略—逆境を生きぬく知恵」(NTT出版、2002年)と、同じ著者の「身近な雑草のゆかいな生き方」(草思社、2003年)は面白い。どちらも「これがいつも私が目の仇のように思いながら抜いているあの雑草なのか」と思うような美しい挿絵がちりばめられている。雑草を見る眼が変わることうけあい、また雑草にまで行き渡る創造の妙味に改めて驚く本だった。でも道端の植物に関するものでの極めつけは小柳康蔵著「[3人の孫たちへ]おじいちゃんの植物記」上下だと思う。足かけ10年にわたって書き続けたおじいちゃんから3人の孫たちへの花と緑の定期便を2冊にまとめたもので、お孫さんの手による挿絵、植物の背景、植物にまつわる物語、おじいちゃんの子ども時代の話など見事に纏められている。私自身、祖父母は孫に対しかくありたいと思わせられる2冊であった。

つい書き綴つてしまつたが、今回はこの辺で許されるなら次回は「中国と女性」で書いてみたい。



ニンカン・ネット 掲示板

◆「メリット・ベル・リンクガーズ」コンサート情報◆

結成17年を迎え、充実した演奏活動を続けているメリット・ベル・リンクガーズ。2月29日には、ナディアパーク内アートピアホールで、自主公演があり、大勢の来場者がベルの音色に酔いしました。今後の演奏活動も楽しみですね。

2004年演奏活動予定

6月7日 中部ハンドベルフェスティバル(パークアリーナ小牧)入場無料
8月3日~7日 ハンドベル世界大会(一部メンバー)参加(トロント)

コンサート詳細、秋以降の日程は、ホームページをご覧下さい。

<http://member.nifty.ne.jp/sibu/>

☆メンバーも随時募集中

毎土曜日午後1時30分~南山短大NO2教室にて練習

興味のある方、見学も大歓迎です。

問い合わせ:22期 寺井こずえさん 090-9029-3006

◆ Thanks ! ◆

今回、挿絵を描いて下さったのは、26期中谷京子さん。星野先生の似顔絵(16期 斎藤紀子さん作)は、星野先生のロゴマークとして、再登場です。通信の編集は、今回も11期山下みどりさんがご尽力くださいました。

◆南山短期大学2004春期コミュニケーションカレッジ講座◆

「人間関係講座」グループファシリテーターの会Seeds
「心理学入門」 泉 ひさ先生
「キリスト教の人間理解」市瀬英昭先生
☆ 語学コース:英語(初、中、上級、TOEIC)ドイツ語、フランス語、スペイン語、韓国語、アラビア語を開講
問い合わせ: コミュニティーカレッジ事務局 電話(052)-834-2900

◆ 南山大学だより ◆

心理人間学科では、第1期生がこの春卒業を迎えました。
人間魂は生きています。短大教育から学部教育へ、そして大学院教育へと発展途上。

2004年4月待望の大学院新設!!

人間文化研究科「教育ファシリテーション専攻」
短大卒の皆さんも社会経験が認められれば、受験することができます!
詳しくは津村先生の「つんつんの体験から学ぼう!」のホームページをご覧下さい。
<http://www.nanzan-u.ac.jp/~tsumura/>
問い合わせ: 南山大学人文学部心理人間学科
『津村研究室』
466-8673 名古屋市昭和区山里町18
電話(052)832-3111(代)
FAX(052)832-3217
E-mail:tsumura@nanzan-u.ac.jp

◆「南山大学人間関係研究センター」より◆

南山大学人間関係研究センター(人間センター)では下記の通り2004年度の講座を開催します。
詳細については事務局までご連絡ください。カタログを差し上げます。

講 座 名	担 当 者
第64回人間関係講座(グループ)	津村俊充、中村和彦
第65回人間関係講座(コミュニケーション)	グラバア俊子、濱本孝子
箱庭療法を用いた自己分析	楠本和彦
ファシリテーター・ワークショップ	山口真人、池住義憲
アドバンス体験学習	山口真人
Tグループ(人間関係トレーニング)	山口真人、楠本和彦、中堀仁四郎、文殊紀久野
ブリーフカウンセリング入門	宇田光
TA入門	中堀仁四郎
Holistic Medicus サルフルケアー研修～和学研究	アッセマ庸代、中村智之、長谷川弘道
ゲシュタルト・アプローチ	川浦佐知子

南山大学 人間関係研究センター

電話(052)832-5002 E-mail:ninkan-c@nanzan-u.ac.jp
<http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/>

◆メリット先生の近況◆

グラバア俊子です。88歳のメリット先生は、今伊豆で元気に一人暮らし。でも、名古屋に住んでいただると、刺激も多く♥ お会いしやすいし♥ 「メリット先生を名古屋に呼びたいな」とグラバアが個人的に考えています。参考までに皆さんからの住宅情報を求めています。

- 条件 1.駅から10分以内・散歩道があればグッド
2.駐車場つき
3.家賃は6~8万円ぐらいかな?
情報をお寄せください。(グラバア俊子)
glover@nanzan-u.ac.jp Fax(0565)-65-1988

◆スタッフ・記事募集します◆

ニンカン・ネットの定例会は、第4土曜日11時~南山短大No.21番教室見学大歓迎!日時の変更がありますので、事前にお問い合わせください。企画・助成・通信の発行などスタッフを随時募集中!

次号の投稿テーマは「大切な時間」投稿をお待ちしています。
担当:6期 青木敦子 FAX 052-723-6173
E-mail:ninkan-net@mail.goo.ne.jp

◆ 編集後記 ◆

今年度は、ようこそ特集号に続き、2回の発行となりました。どうなることかと、心配でもありましたが、編集委員の結束力も一段と冴え、無事に皆さんのお手元にお届けすることが出来ました。いかがでしたか。頂いた原稿や、インタビューからは、共に歩んだ人間への温かい思いやり、励ましの声がきこえてくるようです。ありがとうございました。卒業生一人、ひとりのネットワークがさらに深まりますように。「ニンカン・ネット通信」可愛がってくださいね。
そして、ご一緒に創り上げていきましょう。 (6期 諸岡千佐子)

◆ ニンカン・ネット運営スタッフ ◆

1期 不破真弓 3期 佐藤徳子 5期 小川けいこ 5期 園木紀子
5期 林幸子 6期 古山美保 6期 織田厚子 6期 青木敦子
6期 諸岡千佐子 11期 藤田嘉子 11期 清水みどり
アドバイザー 中野清先生